

吉岡洋とゲストによる
哲学とアートのための12の対話 2024

土曜の放課後

After School on Saturday

主催：12の対話実行委員会 (TWD)

植田憲司、古富真知子、谷本 研、二瓶 晃、由良泰人、大西宏志、室井絵里、安藤泰彦、小杉美穂子

共催：京都芸術大学 文明哲学研究所、京都市立芸術大学 加須屋明子研究室

協力：FRAME in VOX/株式会社デンキトンボ

2024年 4/20(土) 会場 A

5/25(土) 会場 A

6/15(土) 会場 B

7/13(土) 会場 A

8/3(土) 会場 B

9/14(土) 会場 A

9/28(土) 会場 B

11/2(土) 会場 A

11/16(土) 会場 B

2025年 1/11(土) 会場 A

1/25(土) 会場 B

2/15(土) 会場 B

【会場 A】

京都市立芸術大学 C棟5階 講義室12

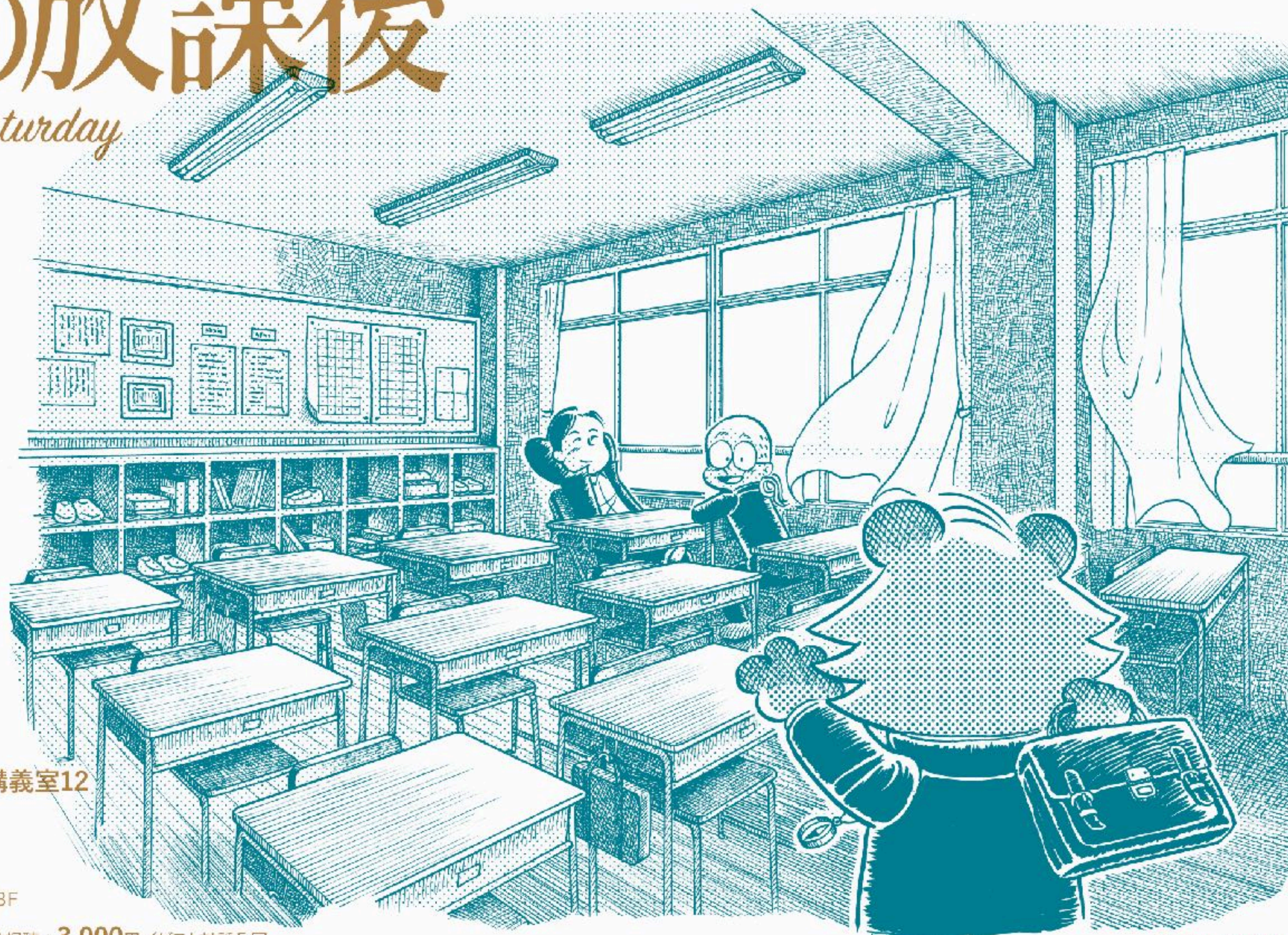
京都市下京区下之町57-1

【会場 B】

FRAME in VOX

京都市中京区大黒町44 河原町VOXビル3F

講座参加費：1,000円/1回 記録映像視聴：3,000円/ゲスト対話5回



イラスト：谷本 研

第12回

2024年度

ラスト対話



人は必要性や有用性だけから何か新しいものを作り出したりしない。面白いから作るのである。

人工知能の場合もこれと同じだ。多くの場合、AIの有用性や効果——ポジティブにせよネガティブにせよ——についての議論ばかりが目立って、その面白さ、「遊び」的な側面についてはあまり語られない。遊んでいる場合ではない、そんな気楽な話ではない、ということだろうか。しかし私はせっきやくAIについて本を書く機会をいただいたので、ここでは思い切り気楽に面白く語ってみようと思う。

(第一章「^{オースト}幽霊はどこにいる」より)



1076

AIを美学する

吉岡洋
YOSHIOKA HIROSHI

なぜ人工知能は「不気味」なのか

ゾンビ、SF映画、名作マンガから
カント、フロイト、実存主義まで

平凡社新書

Varietas delectat.

1076

AIを美学する

なぜ人工知能は「不気味」なのか

吉岡洋

平凡社新書

Y1000



ISBN978-4-582-86076-4
C0200 ¥1000E

定価:本体1000円(税別)

著者紹介

吉岡洋(よしおか ひろし)

1956年京都生まれ。京都大学文学部哲学科(美学専攻)、同大学院修了。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授、京都大学大学院文学研究科教授、京都大学こころの未来研究センター特定教授を経て、現在京都芸術大学教授。専門は美学・芸術学、情報文化論。著書に『「思想」の現在形——複雑系・電腦空間・アフォーダンス』(講談社選書メチエ)、『「こころ」とアーティフィシャルマインド』(共著、創元社)、『情報と生命——脳・コンピューター・宇宙』(共著、新曜社)などがある。



吉岡洋という男性のイメージを作ってください。1956年生まれ、京都出身、美学者です。

ChatGPT



髪型は一つ結びです。

ChatGPT



もう少し現代的な雰囲気にしてください。

ChatGPT



定価1100円(10%税込)

本書の主なトピック

第一章 幽霊はどこにいる

SF映画の中のAI
人工知能研究の黎明期
人工知能の「人工」とは?

第二章 私もロボット、なのか

フランケンシュタイン
ロボット三原則
人間になりたい機械

第三章 不気味の谷間の百合

ゾンビの「不気味さ」
AIに「騙される」ということ
賢いハンス

第四章 実存はAIに先立つ

ドレイファスのAI批判
「身体性」という拠り所
「能力」とは何なのか?

第五章 現代のスフィンクス

AIアイドルに憧れるか
人工知能を芸術の「手段」に
「必要不急」の芸術

2025年2月制作

佐伯啓思さんとの対話——日本と日本人

「踏み絵」（遠藤周作『沈黙』）について

島蘭進さんとの対話——「神様」について

超越者による〈救し〉

- カトリックの「告解」
- 心理療法
- 観音信仰、「冥加」「冥利」

齋藤亜矢さんとの対話——「人類」について

人類以外の霊長類における「交換」と「贈与」

- 「交換」 = シンボル（記号、象徴）の介在
- 「贈与」 = 自他の同一化？」

岡田暁生さんとの対話——「教養」について

教養は役に立つか、立たないか？

- 岡田：「実学」として役に立つ
- 吉岡：「役に立たない」ことの存在意義

安藤裕さんとの対話——「お金」について

- ヨゼフ・ボイスの「Kunst=Kapital」
- アート作品の市場価値
- 「信用創造」とは？
- 「ヴァニタス」 (Vanitas vanitatum et omnia vanitas.)

安藤裕さんとの対話——「お金」について

- 銀行にとって、貯蓄は貸し出しの原資なのか？
- ケインズ、シュムペーターによる「信用創造」
- 国債発行＝貨幣の創造／徴税＝貨幣の消滅
- トランプ後の世界、戦争はなぜ起こるのか？

全体について

メディアでは保守（右翼？）と呼ばれる思想家の佐伯啓思さんや、政治家の安藤裕さんと対談したこと。

ネット、SNSにおけるコミュニケーションの現状と、対話における「そこに人がいる」という基本状況の重要性。

- ① イントロダクション【オンライン】
- ② 老荘思想とVR（『道德経』『莊子』『胡蝶の夢』と脳科学）
- ③ プラトン主義とシンギュラリティ（『国家』、Society 5.0）
- ④ ルネサンス哲学と現代貨幣理論（多面体論、複式簿記、信用貨幣論）
- ⑤ スピノザとエコロジー（『エチカ』、事物が思考すること）
- ⑥ デカルトと双極性障害2型（『情念論』、コギトの行き着く場所）
- ⑦ カント美学と現代アート（『判断力批判』、モダニズムの臨界点）
- ⑧ ヘーゲルと核戦争（『精神現象学』、「絶対精神」としてのICBM）
- ⑨ キルケゴール、ニーチェとSNS（『現代の批判』、メディアと最後の人間）
- ⑩ ハイデガーと人工知能（AIは「世界-内-存在」の夢を見るか？）
- ⑪ 西田哲学とメディアアート（『善の研究』、禅のテクノ化？）
- ⑫ まとめ【オンライン】